

意見募集の結果

No.	住所区分	住所	年代	性別	意見（常任委員会での取組を希望する事項やテーマ）	付託先等
1	市内在住	西別所	40歳以上 60歳未満	女性	ちゃんとした歩道が無くて、通学路なのに危なすぎる。何度も危ない状況を見ている。 ちゃんと歩道を作って欲しい。安心して育児、生活出来ません。	教育福祉委員会
2	市内在住	矢田	40歳以上 60歳未満	—	小学校のトイレ改修を強く求めます!! 劣悪なトイレです。 市議の皆さん、教育委員会の皆さんは視察されたことはないでしょうか。ぜひ、早急に視察して下さい。	教育福祉委員会
3	市内在住	—	20歳以上 40歳未満	女性	道路に面する草木が生い茂ってしまい、交通の確認がともし難い箇所が多いので、整備をお願いしたいです。 また、路上駐車も多い箇所（特に狭い道）の取り締まりの強化もお願いしたいです。 道路に自家用車を毎日停めている方たちの取り締まりもお願いします。 飛び出しなど注意して運転していますが、草木や路上駐車により、確認しにくいことがあるので困っています。 どうか事故のない桑名市を目指す取り組みをお願いします。	都市経済委員会
4	上記以外	四日市市	40歳以上 60歳未満	男性	こどもたちを取り巻く環境についての調査研究提言。 近年、桑名市をはじめ、全国的に、こどもたちが抱える問題が増えてきています。 例えば、いじめや不登校、家庭の問題など、こどもたちの心や体に負担をかける状況が多く見られます。これらの問題は、こどもたち一人ひとりの未来に大きな影響を与えるものであり、早期に対応することがとても重要です。 しかし、現状では、これらの問題に対する取り組みがばらばらで、関係する部署がそれぞれ別々に対応していることが多いのが実情です。この「縦割り行政」のために、十分に効果的な対応ができていないことが懸念されています。 そこで、常任委員会にて、こどもたちを取り巻く環境について、他自治体の事例や関係する部署や関係団体からの聞き取りを行い、オール桑名市で「安心して子どもを3人産み育てられるまちづくり」を市長に提案していただきたいと考えています。 教育や福祉、医療など、異なる分野が連携して、こどもたちにとって最も良い環境を作るための具体的な方法の提案をよろしく願います。	教育福祉委員会
5	市内在住	長島町	60歳以上 80歳未満	男性	河川敷への車での出入りがチェーンがはってあり通行止めになっているのはなぜ？以前は可能だったのになぜ禁止するのか？ もっと自由に利用出来るようにして欲しい。多分利用者のゴミの問題だと思うけど、一部の心ない人のせいで他の多くの人の細やかな楽しみを奪うことはどうかと思う。解放してみんなが楽しめる人が集まる長島町にして欲しい。 ゴミの問題は別途で対処すれば良い。出来るはず。何か問題が生ずれば出来ないようにしてしまえ無くしてしまえはダメでしょう。 もっと楽しい住みやすい町にして欲しいと願っています。	都市経済委員会
6	市内在住	和泉	40歳以上 60歳未満	女性	1. 空き地の管理を放棄している土地があり、雑草に伴う害虫被害や不法投棄、違法駐車被害が町内に発生しているため、所有者への管理要請を市からもっと強く伝えて欲しい。また、要請を無視する所有者に罰則を設けて欲しい。	総務安全委員会
					2. 桑名市全域に下水道を完備すると提言があつてから何年も経っているが、未だに和泉1丁目、2丁目付近は浄化槽のみである。 桑名市は側溝清掃を市民に委ねているため、今後年老いて側溝の清掃が困難になることが不安であることから、早急に下水道完備を進めて欲しい。	都市経済委員会
					3. コミュニティバスからバン、タクシーへの案は良いと思うが、その前に市内道路の渋滞緩和や破損道路整備と歩道の確保、通学路の安全性向上を先にすべきである。桑名市に住むのは高齢の方だけではなく未来を担う子どもも住んでいて、子供が通う通学路が渋滞の抜け道に使われていることが多く、危険極まりないことになっている。道路の端もひび割れ、穴があり転倒の原因になり、子供だけでなく手押し車を使う高齢の方も危険になる。 ずっと桑名市に住んでいるが、この10年、インフラの整備がずっと滞っていることにとっても残念に思っています。インフラが整備されなければ、観光誘致しても、移住を促しても、桑名は住みにくい過ごしにくい街と感じて、魅力のない街になってしまうのは嫌です。 桑名市の良いところを他の地域の方により良く感じていただけるよう、ご検討願います。	都市経済委員会

No.	住所区分	住所	年代	性別	意見（常任委員会での取組を希望する事項やテーマ）	付託先等
7	市内在住	長島町	20歳以上 40歳未満	女性	乳児2名、幼児1名を育てています。数年前に比べ、子育て支援センターの利用時間が2時間までと制限され、曜日も減っていました。新しくできた支援センターも利用可能時間が短いので、お昼寝の都合もあり、いつでもいける訳ではなく利用しづらいです。	教育福祉委員会
					長島に昔あったプールも老朽化でなくなりました。今は温水のある飛島までプール遊びに出掛けています。子供と健康のために長島の温水プールを復活させてほしいです。	総務安全委員会
8	市内在住	多度町柚井	60歳以上 80歳未満	男性	合併して20年が過ぎました。1市2町がもっと特色の有る町づくりを進めてはと思います。 桑名は市の中心としての役目が有り、東海道の宿場町に城下町と言う歴史が有り、長島は大きな遊園地等も有る観光地が有り、多度は工業団地と多度山と言う自然が有ります。人に来てもらう、住んでもらうように、もっと特色有る町づくりに予算を付けてと思います。	都市経済委員会
9	市内在住	長島町西外面	20歳未満	男性	近鉄長島駅とJR長島駅周辺における路上喫煙防止の取り組みの強化。 特に学生や子供が通る時間帯。	総務安全委員会
10	市内在住	多度町小山台	20歳以上 40歳未満	男性	【議員定数削減】 日本の人口減少は決定的なもの。三重県内でも鈴鹿市、松阪市では市議会議員の定数が削減された。桑名市が人口減少対策パッケージを策定したとしても桑名市の人口の減少は避けることができない。人口が減少しているのであれば、議員定数の削減を検討する必要がある。 議員定数を削減した分の費用については、物価や人件費が高騰している分、市民サービスにも影響がある。市民サービスの向上や、桑名市の職員定数の増加、待遇の改善によって人材を確保することを望む。 【議員の評価制度の導入】 市議会議員がどのような仕事をしているのか、市民は一部の情報誌でしか知ることができない。一部の議員はSNSなどを活用して、活動の見える化をしている議員もいる。他の市町村の議員からは、「年収700万で300日の休日。税金泥棒で申し訳ない」と地方議員の現状について訴えるコメントもある。桑名市の議員でも年収は700万円と、平均賃金より高いのが現状である。一部の議員では市民の代表としての実力に欠ける議員も見受けられる。市民としては、労働の対価として頂戴する給与の大切な一部を税金として納め議員の人件費とするのであれば、給与全額を受領するに値する議員か、市民の判断を委ねる必要がある。また、民間企業では自分の仕事を評価する仕組みもあるので、議員も同様のことを行い、市民に対し公開する責任がある。	各派代表者会議 (別途協議)
11	市内在住	—	40歳以上 60歳未満	—	桑名駅前についてです。やっと一部の取り壊しが始まりました。そこで開発に対してもっと考えて欲しいです。 東口が騒がしいです。広告の掲示板がうるさくて駅に行くたびに嫌になります。 桑名駅周辺の子育て施設の再編という名の基に厚生館保育所、キラキラが民営化になります。(市長の保育に対する熱はあまりないという事だと)ならば、桑名駅前ももう少し、どの年代もゆっくり過ごせる緑のある豊かな空間にならないでしょうか?せっかく、電車も見えます。そのようなことを活用して、遊べて、ホッとできる場所にして欲しい。特にあのうるさい広告はいりません。内容も特にためにもならないし。もっと桑名駅に行きたいとみなさんが思えるようにしてください。よろしくお願いします。期待しています。	都市経済委員会
12	市内在住	南魚町	40歳以上 60歳未満	男性	南魚町町内会での出来事です。石取祭りの歳出を町費から集める為、また、氏子だからという理由で高額な町費を請求され、大変困っています。宗教のお金なので町費と区別してくださいというお願いを何年も前からしているのですが、一向に変わらないどころか、払わない人がいると町の年長者から金を払えと圧力をかけられ、ハラスメントも横行しています。自治会連合にも嘆願したのですが、受け入れてもらえません。 市町村によっては町内運営のガイドラインを設定しているところもあります。桑名市内の他の町内でも同じ問題が起こっていると聞きます。健全な祭りの運営のためにも、過ごしやすい町内を作るためにも、お力添えをいただきたく、意見を送らせていただきます。どうぞ宜しくお願いします。	総務安全委員会
13	市内在住	長島町西外面	20歳未満	男性	自衛官募集事務に係る対象者情報の提供については、桑名市はどのような立場を取っているのか、調査し公表すること。提供している場合、情報提供を希望しない人向けの申請制度は整備され、周知しているのか調査を行い、公表する。	総務安全委員会
14	市内在住	長島町西外面	20歳未満	男性	能登半島地震を受けて、避難所のガイドラインが改定された。現在、避難所と指定されている建物でガイドラインに対応できるのか調査し、沿ったものにする。できない場合はどうするのか、専門家を交えて考えること。	総務安全委員会

No.	住所区分	住所	年代	性別	意見（常任委員会での取組を希望する事項やテーマ）	付託先等
15	市内在住	新西方 2-273	40 歳以上 60 歳未満	女性	<p>新西方 3 丁目バス停の北側にある竹林で、週に何回も誰かが野焼きをしています。洗濯物を干すと匂いが付き、外に干せず、窓も開けられず、大変困っています。子供もいて、妊娠もしており、健康被害が心配です。</p> <p>このままなら別の市に引っ越そうかと考えている人も多数おります。</p> <p>延焼することも考えられるため、野焼きをやめさせてください。それも無理なら、最低でも何日の何時に焼くのか申告し、住人に周知すべきだと思います。</p>	総務安全委員会
16	市内在住	松ノ木	60 歳以上 80 歳未満	男性	<p>薪ストーブによる健康・生活被害対策について</p> <p>当家は隣家の薪ストーブによる健康・生活被害を毎年受けています。</p> <p>ご存知のように、薪ストーブの設置や使用については規制・罰則の法律がなく、使用者の良識に委ねられているのが現状です。</p> <p>しかし、隣家の様に薪ではなく、住宅建材や廃材など有害物質を含んだ物や出所不明の伐採枝などを集めて燃やしている者もいます。同被害は全国で問題になっています。桑名市でも少なからず発生していると聞いておりますが、市は同問題に対し消極的な姿勢のようです。法の不備もあり難しい問題とは思いますが、安心な生活と安全な街づくりのためにも、条例など何らかの対策を講じて頂ければ幸いです。</p>	総務安全委員会
17	市内在住	多度町	40 歳以上 60 歳未満	男性	<p>1. 入院しているこどもの家族の付き添いに関する提言</p> <p>小児科などへの親の付き添い入院は、妻及び私自身も体験しており、非常に大変です。国としてもこの課題に取り組もうとしているようですが、是非とも緊急の課題として、市として医療機関と協業で先駆けて取り組んでいただくことをご検討お願いします。</p> <p>公益社団法人 日本小児学会から「入院しているこどもの家族の付き添いに関する見解」が示されています。ここでは、1) 入院しているこどもと家族の権利、2) 家族がこどもの入院に付き添うときの課題と解決のための提案、3) 家族がこどもの入院に付き添わないときの課題と提案がまとめられており、市としてもこの課題に取り組んでいただきたくご検討お願いします。</p> <p>公益社団法人 日本小児学会からの「入院しているこどもの家族の付き添いに関する見解」</p> <p>リンク先：https://www.jpeds.or.jp/modules/guidelines/index.php?content_id=154</p>	教育福祉委員会
					<p>2. 障がい者を育てる者や本人への金銭的支援について</p> <p>特別児童扶養手当と障害児福祉手当の所得制限についてのお願いです。</p> <p>20歳未満障がい者を育てる者や本人への手当に特別児童扶養手当と障害児福祉手当があります。この制度には所得制限があります。世の中の賃上げの流れにより、収入は増えるものの、物価高の影響で生活水準は変わらないにもかかわらず、所得制限の基準は変わっていないのが現状です。桑名市は、他の行政に先駆けて児童手当の所得制限を撤廃されました。この二つの支援に対しても所得制限が撤廃されることを一番に望みますが、政府のインフレ目標は2%でもあり、世の中の賃上げ、インフレ水準に合わせた所得制限の見直しが必要と考えます。ご検討お願いします。よろしくごお願い致します。</p>	教育福祉委員会
18	市内在住	—	—	—	<p>① 人権講座の連続での実施の提案</p> <p>桑名市では『人権尊重都市宣言』、『青少年健全育成都市宣言』、『暴力追放都市宣言』、『子どもの笑顔を守るまちくわな～子どもを虐待から守る都市宣言～』などが出されました。また、【こどもの権利条例やカスハラ防止条例】も4月から施行されます。また、桑名市のさまざまな部署でそれぞれに人権に関わる取り組みがおこなわれていることも確かです。桑名市では2月にアルコール依存症に関わってその防止に質する目的で講演会を実施されました。それぞれの取り組みは、人権を守る桑名市としての形をつくってきました。桑名市政に関わるみなさんの長年の努力の結果であると思います。</p> <p>しかし、日々に伝えられるできごとからは、残念ながらこれらの宣言の理念が市民の生活に活かされているとは言えない状況を伝えています。市民の意識と生活を変えるために、ぜひ市民の啓発やそれを支える行政の取り組みをさらにすすめてほしいと考えます。このために桑名市で【人権講座】を組み、連年でおこなっていくことを検討してください。</p> <p>その人権講座では【子どもや若者の貧困・いじめ・不登校・性暴力・DV・外国籍の人々と共生・障がいを持つ人々の生きる町・ヤングケアラー・ジェンダーバイアス・ルッキズム・人口減少と高齢化】などの個人を深く傷つけているとともに市民社会を壊しかねない、</p>	総務安全委員会

No.	住所区分	住所	年代	性別	意見（常任委員会での取組を希望する事項やテーマ）	付託先等
					<p>そして何よりも桑名市にとって大切なテーマを選んでほしいです。学ぶことで、それぞれの人たちが、それぞれの生活場面でそれぞれに解決する端緒を見つけることにつなげてほしいです。</p> <p>また、様々な人権にかかわる課題の中でも、【性暴力】に特化してお伝えするならば、『性暴力がどういった性質をもった出来事であるのか、暴力の現実やその後の影響』について市民が正しい理解が得ていないため、そのことにより予防や救済への取り組みの障壁となっているように思います。被害者への誹謗中傷・偏見、二次被害ともいえる現状が続いている原因も『無理解、知識不足』がもたらすものだと考えています。市内の様々な場面で権利侵害が行われようとしている現実を点検してほしいと思います。正しく学び備えることが市民の安心安全を確保する手立てだと思しますので、上記の『人権講座』の継続的な実施をお願いします。</p>	
					<p>② 性暴力に向き合う力をつける学びの提案</p> <p>連日のニュースにあるように性暴力は多くの人々、特に子どもたちを脅かしています。しかし、多くの子どもたちは性暴力から自分を守る手立てはもちろん、何が性暴力であるかさえ分かっていません。わたしは、つい先日ある大学で30名余の学生に話をしました。とても穏やかで真剣な学生さん達でしたが、彼も彼女も【ワンストップ支援センター】の存在さえ知りませんでした。その中には桑名市出身の学生さんも見えたことと思います。性暴力の原因は、ご存じのように被害者にはありません。性欲が原因でもなく、加害者が人を支配しようとする支配欲の結果が性暴力です。こうした理解があってはじめて性暴力の防止の方向が見えてきます。また被害を防ぐ方法も自然に身につくものではありません。自分の何を大切にし、どう守るか。相手の何を大切にし、どう守るか。被害者にも加害者にもならない方法があります。残念なのは、この方法を伝えられる方がいるのに、子どもたちや教職員、保護者の方に伝える機会が、桑名市では与えられていないことです。しかし、桑名市には山田智子先生や松岡典子先生、川村真奈美先生をはじめ講師適任者がたくさんおみえです。ぜひ、こうした桑名市の財産を活かしてほしいと思います。</p> <p>ところが、このことを市教育委員会にお話ししたところ、性暴力の防止の教育の必要は分かっているが、各小中学校で一斉におこなう予算（講師料2万円×36校＝72万円）がないため行えないとのことでした。しかし、三重県内でも四日市市などでは議会が予算を確保し、外部講師を招いて連年で講座を実施して、大きな成果を上げています。（ご存じのとおり、松岡先生や川村先生が講師をされています。）どの自治体も性暴力が被害者に一生にわたる大きな被害を与えることを理解し、子どもたちを守る施策を実現しています。性暴力から自分を守ることを学んだ子どもたちはおとなになり、自分の周りにいる子どもたちにその力を伝えるでしょう。そして、その子どもたちもやがておとなとなり……桑名を性暴力の加害者も被害者も出さない町にします。どんなことにも始まりはあります。ぜひ桑名市でも、性暴力から子どもたちを守るために積極的な取り組みを検討してください。</p> <p>すべての学校から始められないなら、まず数校の学校から始めてはどうでしょうか。そこで学んだ子どもたちは、この町で生きておとなになっていきます。そこで学んだ教職員は、次の職場に学びを伝えていきます。</p>	教育福祉委員会
					<p>③ 学校教育の捉え直しの取り組みの提案</p> <p>日々、わたしたちは桑名市内の小中学校の先生たちとふれあう機会があります。しかし、残念ながらコロナ禍以降の教職員の様子はとても心配なところを多くあります。確かに働き改革をはじめ、現在は学校にとっても大きな節目、変わり目ではあります。しかし、わたし達が訪れた大阪や奈良、いえ三重県の他の自治体と比較しても今の桑名市は寒心に堪えません。これらは個々の教職員の資質ではなく、それを支える時代の要求に合わない制度、研修、人的な配置にあるように感じます。学校、教育委員会だけに子どもたちの様々な問題を任せるのではなく、桑名市民総掛かりで取り組める制度や人的配置や教員のすべき仕事に専心できる制度、その専らにする仕事を明らかにする研修をおこなってほしいと思います。</p> <p>教職員の仕事はすでに飽和状態であり、できないこともできることもない交ぜになって、学校が壊れようとしていることは明らかです。すでに400人を越えようとしている不登校の子どもたちの存在や2023年度を中心とした一部の小学校の状況はその現れです。教職員の仕事は学校で子どもたちを教え育てることであり、その中心は授業であり、子どもたち同士や子どもたちと教職員との関係づくりです。もちろん学校だけでは子どもたちを守り育てることはできません。いじめや性暴力、体罰など学校で起きている問題や家庭と地域で子どもたちに起きている問題に気がつくことです。起きたことがらを学校だけで解決することは不可能なことが多く、必要に応じて</p>	教育福祉委員会

No.	住所区分	住所	年代	性別	意見（常任委員会での取組を希望する事項やテーマ）	付託先等
					<p>専門機関につなぎ、解決していく端緒を開くことです。残念ながら現在はこうした仕組みはほとんどありません。また、教職員自身もこうした考え方を持ったり、具体的にしていく方途を持ったりしません。現在の困難な状況の中で子どもを守るには、今、こうした学校の専門性を発揮することと外部の専門機関や民間の力を総合していくことを現実化していく必要があります。このために教育委員会を介して以外にも、子どもたちや保護者、教職員の心にしまわれている学校教育への思いや願い、喜びや悲しみ、怒りなども含めて外に出していかなければなりません。学校は人が作るものだからです。人を大切にすることから学校は再生できます。こうした聞くことができる人たちは、民間にも多くいます。ぜひ活かしてほしいと思います。この中で得た力は、学校が外につながっていく契機になります。学校に変わっていく苦しみの機会をあたえてほしい。その苦しみを見守ってほしい。その苦しみが活かされていく方途に関わってほしい。</p> <p>一つの仕組みは作り上げるまでに長い努力が必要です。今の学校も長い時間と子どもたち、保護者、地域、教職員、行政や立法に関わる人たちの努力によって作り上げられました。しかし、壊れてしまうことはとても簡単です。今、勇気を持って学校の方向を定めていくことは、桑名の子どもたちの大きなプレゼントになります。その舵取りは市民の力に支えられた市議会だと信じています。どうぞよろしくお願いたします。</p>	